

# 第17期町田市立図書館協議会

## 第3回定例会議事録

日時：2017年11月20日（月） 午後2時00分～午後3時00分

場所：町田市立中央図書館 6階中集会室

### ■出席者

（委員） 山口洋、坂西圭子、大石眞二、清水陽子  
鈴木真佐世、池野系、小西ひとみ（計7名）

（館長） 近藤裕一

（事務局） 中嶋真（副館長）、二方光輝、陣内和之

■欠席者 瀧桂子、石井清文、若色直美

■傍聴者 0名

## 第17期図書館協議会 第3回定例会次第

### 《議事録確認》

第2回定例会議事録

### 《館長報告》

#### 1. 教育委員会

第8回 11月10日（金）

（図書館に関する議案審議事項、報告事項等はなし）

#### 2. その他

- ・点訳ボランティア体験講座 10月24日（火）
- ・京王線沿線七市連携協議会 10月25日（水）
- ・東京都市町村立図書館長協議会 10月25日（水）
- ・東京都市町村立図書館長研修会 11月14日（火）
- ・市民参加型事業評価（木曾山崎図書館） 11月18日（土）（別添資料）
- ・「ゴッホ展」関連文化講演会（和光大学ポプリホール鶴川）  
11月30日（木）

### 《協議事項》

#### 1. 図書館評価について

### 《その他》

## ■議事録

○山口委員長 それでは、定刻になりましたので、第17期図書館協議会第3回定例会を開催いたします。

本日の欠席者ですが、瀧委員が公用で、石井委員と若色委員が私用でご欠席でございます。

それでは、次第に従って議事を進めてまいります。

まず、最初の項目にあります議事録の確認ですが、第2回定例会の議事録について、既に各委員さんには議事録が送られていると思いますが、特にこの場で訂正事項がなければ承認ということにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、第2回定例会の議事録は承認されましたので、公開の手続をお願いいたします。

次に、館長報告に入ります。それでは、館長、お願いします。

○近藤館長 それでは、館長報告を行います。資料をご覧ください。

まず1点目、教育委員会ですけれども、第8回が11月10日にごございました。ただし、この回につきましては、図書館に関する議案あるいは報告事項等はありませんでした。

2番、その他です。1つが点訳ボランティア体験講座ということで、10月24日に開催いたしました。今回は、点訳ボランティアの活動を知ってもらうというのをテーマに、実際にどんな活動を行っているか、講師の先生からお話を伺って、あるいは点字のルールを学んで、あと実際に点字を自分で打ってみる体験をした講座になります。全部で20名の方が参加ということになっております。

2点目は、京王線沿線七市連携協議会ということで、こちらは町田市を含めて京王線の沿線に7市ございますけれども、年に3回ほど館長が集まって課題等があるかどうか等、あるいは情報交換を行っております。今回につきましては、毎年改定をしているのですけれども、7市の図書館の例えば所在地だったり開館時間だったり、そういったガイドブックを作成していますけれども、その改訂作業を行って、それが完成したということです。

3点目になります。こちらは東京都市町村立図書館長協議会の報告になります

す。10月25日午後3時から、都立多摩図書館でありました。今回は、次にあります館長研修会の確認であったり、視察研修、1月24日に成蹊大学の図書館に行くということなので、そのような報告がありました。

一番大切なのは、議題として毎年、多摩地域の図書館で公立図書館大会を開いていますけれども、今年度は大規模な大会ということで、その日程と分科会のテーマと講師の先生が決まりましたということです。日程としては、2月6日（火曜日）、7日（水曜日）、8日（木曜日）の3日間になります。場所は都立多摩図書館の1階のセミナールームです。今までと違って今度の会場は多分200名ほどは入れると思うのですが、そのような形になります。第1分科会が館長協議会主催の会、あと、それぞれ三多摩地域資料研究会であったり、児童サービス研究会、障がい者サービス研究会、図書館サービス研究会、協力担当者会ということで、館長協議会の中にある5つの研究会でそれぞれ分科会を行うということです。正式な案内が来ましたら、また委員の皆様にもお知らせして、参加できる方はぜひ参加していただければと思っております。

次が図書館長の研修会があったので、その報告です。11月14日に、場所はやはり多摩図書館でありました。今回は図書館サービスにおけるユニバーサルデザインについてということで、同志社大学の客員教授であり、株式会社ユーディット会長兼シニアフェローの関根千佳様から講演をいただいたということです。関根さんがどのような形でそういうことに携わってきたかというような話から始まって、2016年4月に施行された障害者差別解消法の関係とか、あと図書館におけるユニバーサルデザインのいいところとか、こんな図書館もありますよみたいなご紹介も最後にはありました。

次が、この前の土曜日にあったのですが、市民参加型事業評価の報告になります。これにつきましては、お知らせしてあったとおり、木曾山崎図書館が対象でした。資料は、A3の3枚の用紙がついているのですが、当日の流れですが、私の方でこの3枚の資料に基づきまして10分ほど、まず概要説明をしました。その後、45分ぐらいコーディネーターの方、評価人の方と意見交換、質問があって答えていくというやりとりをしていったという形になります。

まず、概要説明ですが、こちらは木曾山崎図書館がどんな仕事をして

いるか。一地域図書館の話と図書館全体の話、どうしてもかぶってしまう部分もあるのですけれども、最初に木曾山崎図書館の事業内容ということでご説明をしました。

説明の後に、一般の来場者の方もいらっしゃっていますので、その方に対してリモコンでどんな印象でしたかみたいなものがあるのですけれども、それを少しご紹介すると、まず、事業を知っていますとか、あるいは利用したことがありますという方が44%、知っているけれども利用していないという方が48%でした。事業概要説明はどうですかということですが、わかりやすいというのが46%、わかりにくいのが8%、どちらでもないが46%。事業の評価は、最初の説明を聞いただけの段階ですが、要改善が42%、現状維持が46%、廃止という方も12%いたということになります。

この後に実際に評価人の方との質疑応答があったのですけれども、どんな話があったか少しだけ紹介しますと、まず、組織としてわかりにくいのかなというのは、地域館の館長というのは町田市の場合はいないのですけれども、この組織で言えば係長になるのですが、係長の権限はどのくらいあるのかという質問であったり、この資料を見ていただくと、2枚目の表-7ですが、60歳以上の利用者が移動図書館を除くと木曾山崎図書館が一番高いというのは割と顕著に表れていましたが、そういう実態を踏まえて、どのような対応をとってきたか、今後どうしていくのかというようなお話であったり、あと木曾山崎図書館そのものの存在の意義であったりというようなお話がありました。

それについて私の方で答えていって、最終的にはもう1度リモコンの判定があったのですけれども、評価人と所管課の議論はわかりやすかったという方が57%、わかりにくかったという人が14%、どちらとも言えないが29%でした。それから、事業に関心を持たたかという問いで、持てたという方が89%、持てなかったという人が4%、どちらとも言えないが7%でした。また、事業評価の結果として、要改善が50%、現状維持が43%、廃止が7%という結果でした。それは傍聴していた方のアンケートになります。

最終的に最後の時間、10分ほどかけて評価人の方がそれぞれご自身がどう思っているか、その理由の発表がありました。5名の評価人の方がいらしゃったのですけれども、結論から言うと、全ての方が要改善ということです。内

容、どういう理由でということをご説明しますと、担い手の問題とか市民との関係、まちづくりのための組織づくりが必要ではないかとか、館レベルの分権化が必要ではないかというようなご意見、もうお一方は、ユーザーに合わせた環境づくりが必要ではないかということ。3人目の方が、民間の力もかりて図書館が地域交流の場になれないかということです。あと、ネットにおける効率化の強化が必要ではないかということ。4人目の方が高齢化に対応できていないので、その対応が必要である。地区交流とか、その地域の潜在的な需要の掘り起こしが必要ではないかということ。最後に、地域ニーズへの迅速、柔軟な対応、まちづくりにおける図書館が果たす役割についての検討が必要ではないかというようなことでした。そのようなことが18日の段階です。

今後に向けてですけれども、要改善ということですから、どんなスケジュールになるかはまだ聞いていませんけれども、改善のプログラムをつくっていくということになるかと思えます。

次がちょっと先になりますけれども、11月30日に「ゴッホ展」ということで文化講演会を開催します。いつもはあまり講演会のことはご紹介しないのですが、今回、いつも中央図書館で行っている講演会を和光大学ポプリホールの地下の小ホールで行いますので、いつもだと100人ぐらいの方しか参加できないのが300名弱の方が参加できるということになります。

最後に、レジュメには書いていないのですが、次の教育委員会で報告しようと思っているのですが、先にご報告しておきますと、実はこの図書館ができてもう27年ぐらいたっていて、エレベーターも1基しかないのですが、改修工事が必要だということになっています。来年の1月29日から2月26日まで約4週間、エレベーターの改修工事を行います。エレベーターが使えないということで利用者の方にもご不便をかけますし、我々もエレベーターが1基しかないので、本を運んだりするのにかなり大変なのですが、そのためだけに図書館を閉めてしまうということも問題があるかということでいろいろ考えまして、本来、いつも6月にやっている蔵書点検をこの時期にまずはやらせていただいて、その間は休館をさせていただくということで1月29日から2月5日まで8日間、2月6日から2月26日まで工事はやっているけれども、図書館は開館するというようになります。

車椅子の方とかベビーカーの方とか、当然使えない訳で、その対応として、普段は2階には人を誰も配置していないのですけれども、職員を配置して、ベビーカーの方だったら、例えば家族の方がお子さんを抱いて、ベビーカーは職員が4階まで持って上がるとか、降りてくるときはその逆をやるとかというような対応をとるといふことと、車椅子の方が例えば予約の本だけを借りに来たといふことであれば、そこの2階にいる職員が対応しますし、中で本も見たいといふことであれば、ホテルの協力を得てホテルから入って、同じ建物なので、ホテルの業務用のエレベーターを使って4階とか5階まで上がって、非常通路、要するにふだんは入れないところから図書館側に入ってくるというような対応で、職員がそこをきっちり案内していくというような対応で、できるだけ休館を少なくしたいといふことを考えております。このようなことを今考えているといふことです。

報告は以上です。

○山口委員長 ありがとうございます。

それでは、報告事項について質疑応答をしていきたいと思いますが、まず、教育委員会は特に図書館関係の議案審議事項なしといふことですので、特に報告事項はありませんので、よろしいかと思ひます。

2番目のその他といふところですか。これについて見ていきたいと思ひますが、まず、点訳ボランティア体験講座につきましてはいかがでしょうか。

○小西委員 これは体験講座なので、このままボランティアさんとして登録する流れのものではありませんね。これを体験された方が実際にボランティアになるためのつなぎみたいところといふのは何かされているのでしょうか。初級講座を受けないと、点訳と音訳は多分ボランティアとして働けない状態なので、その初級講座をやっているところが今は余りない。点訳はわからないのですけれども、音訳はほとんどなくて、我々も朗奉では自力でやっているような状態なので、そこへのつなぎを何かアナウンスされているのかなと思ひました。

○近藤館長 今、委員がおっしゃったとおり、これを受けたから点訳ボランティアに登録できるというレベルの講座ではないのです。あくまでも体験といふことなのです。自力で図書館で初級講座とか、しっかり開けるかといふのもな

かなか難しいということで、今のところ、例えば今の音訳などの場合は、以前だったら市とか社協かわからないですけども……。

○小西委員 ボランティアセンターさんで。

○近藤館長 やっていたと思うのですけれども、今はそれもやっていないという状況の中で、そこが図書館だけの課題ではなくて、町田市全体とか、その辺のボランティアさんの育成というのは課題だと思っています。これについても、とりあえずすぐ初級講座がここへ行けば受けられますみたいなご案内はできなかったのですけれども、今後、そのような形、外がどんな動きをしているかとかの情報を得ながら、あればしっかりそういうふうにつなげていく試みをしていきたいとは思っていますけれども、今回はそこまではしていないということになります。

○鈴木委員 20名の方が参加されたという数字からいくと、その方たち、やってみようと思われた方たち、その先がないというのは、今ないとおっしゃったのですけれども、ここをというように紹介するところもない状況な訳ですか。

○近藤館長 そうですね。私も最初30分か40分か、一緒に入って聞いていたり、皆さんの様子を見ていたのですけれども、本当に熱心に取り組んでいたというのは間違いのないのです。担当の職員からも話を聞きましたけれども、次につなげられないのが本当に残念でたまらないということだったので、そこはすぐ来年度どうかというのはわかりませんが、いろいろな情報を集めながら、できるだけ努力していきたいということです。

○小西委員 私は音訳の方の町田音訳グループ・朗奉というグループにおりますが、ボランティアセンターでの初級講座が実施できないということで、団体で自力で初級講座を実施し、自分たちの団体に入ってくれる会員を集めているといますか、養成するという形になりました。点訳の赤十字さんの方も、そのような形で動いていらっしゃると思います。我々もボランティアという立場なので、毎年確実にできるというものではないのですが、そういったところとの連携をこちらからもアプローチさせていただいて、ぜひその方々にご案内ができるような流れが団体と図書館の間でできるといいかと思っています。それ以外には、今のところ、いろいろ調べたのですけれども、やはり初級講座をやっているところがない。都内でも、それぞれの図書館のボランティアさんになると

ということが条件だったり、実施されている団体も、その団体のお仕事をするということが条件なので、そこからこちらに来ていただくというのは非常に難しい状態なので、ぜひその連携を密にさせていただければ、ひいては図書館のお仕事もさせていただくような流れになるのではないかと思いますので、またご相談させていただきたいと思います。

○近藤館長 ありがとうございます。ぜひ一緒にできればと思いますので、またお話をいただければと思います。

○山口委員長 点訳は多分図書館だけではなくて、市のさまざまな公共サービスの部分でも必要になる技術だと思うのです。そうすると、町田市では今それを支える仕組みがもうないという状況なのではないでしょうか。知らないのですが教えていただければと思うのですが、これはむしろ小西委員の方が詳しいのかな。

○小西委員 私も点訳に関しては詳しくは存じ上げませんが、日本赤十字点訳奉仕団がいらっしゃるのと、あと図書館からは図書館に登録されているボランティアさん以外に、そういった団体に点訳を依頼されている。音訳も依頼されているのですけれども、点訳の先としては3カ所ぐらいを挙げていらっしゃるの、そういった地域のボランティアが支えているというような状態なのかと思います。

あとは、町田市内ではないところにも委託されているケースがあるのかもしれないです。私も、音訳などもそうなのですが、町田市からは業者的な形で委託を受けて、そのお仕事をさせていただくような形に今はなっていますけれども、全ての音訳物をやっている訳ではないので、幾つかの団体を市の方ではご存じで、ご依頼はされていると思いますけれども、それは本当にボランティア団体というような形ですね。

○山口委員長 ありがとうございます。図書館では、障がい者サービスで点訳、音訳というのは、むしろ重視されるものですが、実際には市の広報とか、さまざまな情報も点訳、音訳で伝えるというのは現実にある訳ですから、やはりそこら辺は単に図書館の問題だけではないのかなと思いますね。やはり人がいないと、幾らボランティアでも何でも続かなくなりまして、またボランティアだけに頼るというのもどうかと思うので、やる気のある方が20名もいらして、その次のステップが踏めない、せめてその最初ぐらい何とかならな

いのかなと思いますね。これはむしろ図書館の問題だけではなくて、生涯学習全体のもっと幅の広い課題として今後とも注視していかなければいけませんけれども、生涯学習審議会では余りこういう話題は出ないですね。このあたり池野委員、いかがですか。

○池野委員 さっき鈴木委員も言われたように、20名来たというのはすごく大きいと思いますし、図書館のいろいろな講座の中で20名というのは割と多いのではないと思うのです。そこの受け皿がないということが非常にもったいない部分と感じますし、今、委員長が言われたように、これは図書館全体だけではないのですね。町田市民全体の問題でもあるので、それこそ生涯学習の中で何か逆につなげていければいいかなと。同じ課題であると思います。

○山口委員長 ありがとうございます。

あと1点だけ、これは館長に確認ですが、点訳ボランティア体験講座は毎年行われている行事でしたでしょうか。

○近藤館長 昔のことはよくわかりませんが、体験というのは余りやっていないくて、点訳のボランティア、今やっている方に対する講座とかは開いていると思いますけれども、今回は裾野を広げたということです。

○山口委員長 ありがとうございます。裾野が広がったということは第一歩なので、二歩目、三歩目は何とかしたいと思います。これも協議会で何かかかわれることがあれば、今後とも注視していきたいと思います。

この件はよろしいでしょうか。

では、続きまして京王線沿線七市連携協議会についてということですが、これは京王線沿線を中心とした多摩地域の7つの自治体で図書館の相互利用ができるようになっていて、その協議会ということなのです。これについては特によろしいでしょうか。

私からですが、この7市は連携協議会がある訳ですけれども、こちらで7つの自治体間の例えば相互利用の件数とか、あとは実態についての報告、また統計みたいなものというのはつくられているのでしょうか。

○近藤館長 小まめにこの会で、例えば10月の会で報告するということはしないのですけれども、1年に1回、1年を過ぎますとまとめて、春の5月ぐらいにやるのですけれども、そこに前の年の統計をまとめた形で、例えば町田市民

がどこの市の図書館で何冊借りたとか、そのようなレベルですけれども、そういった統計はまとめております。

○山口委員長 これについては何か公開は、例えば町田市の利用については「町田の図書館」という年報に出ているかと思うのですが、ほかの自治体については、それぞれの図書館で公開という形なのですか、それとも連携協議会として何か公開するようなことはされているのでしょうか。

○近藤館長 連携協議会として特に公開ということはしていないので、そのデータをもとに、町田市はそこに絡むところだけ「町田の図書館」に載っていますけれども、そういった形で各市が利用しているということだと思います。ただ、それは別に全市の分がわかるように、別に公開しても悪いことはないと思います。今まで余り思い浮かびませんでしたけれども、そのようなことも少し話題に出してみようかと思います。

○山口委員長 広域利用というのは最近あちこちで動いていると思うのですが、やはり7市というのはかなり広域だなと思うので、そこで利用の動きとかが見えると思うし、もう1つは、7市の図書館のそれぞれの蔵書の量とか、運営の形態、多分いろいろ数値の上で見えるのではないかと思うのです。そういう意味では、ぜひまとまったデータとして全体が出てくると、それはそれでまた新しく多摩地域の図書館活動を考えるいいきっかけになるのではないかと思うので、ぜひこれは何か分析をされて出されるとおもしろいのではないかと思います。これはぜひ館長にお願いしたいと思います。

よろしいでしょうか。

では引き続きまして、東京都市町村立図書館長協議会と研修会ということで上がっておりますが、内容としては来年2月ですか、公立図書館大会の大規模大会が今回回ってくるということですのでけれども、この件につきましてはいかがでしょうか。

○鈴木委員 前に尾留川館長のとときに、ボランティアが年間どれぐらい図書館にかかわって活動しているかとかという調査があったことがありましたけれども、今は特にかかわっている市で共通して何か調査しているかとかということはないのですか。

○近藤館長 さっき言った5つの研究会は、2年間で1つの単位として活動し

て、その最後のまとめが今度の大会ということになるのですけれども、この2年間の活動を見ていますと、今、鈴木委員がおっしゃったような何か調査して、それに基づいてというようなことはなかったように思います。

○鈴木委員 わかりました。何かそういうことがあったら、前回のときは、そのデータが各市町村のプライバシーとか何かでなかなか公表されなかったので、次回、そういうことがありましたら、せつかくそういう調査があつて、それを生かすためには公表された方がいいと思いますので、ぜひその辺は今後そういうものがありましたら、共通のこととしてやっていただきたいと思います。

○近藤館長 今、鈴木委員からあつたように、前回の児童サービスのときは行き違い等があつてなかなかうまくいかなかったのですけれども、今後そういった話があれば、そういったことを事前によく確認しながら進めるよう、私が直接かかわっている会かどうかはまた別としても話はできますので、やっていきたいと思います。

○山口委員長 よろしいでしょうか。

では次に、市民参加型事業評価（木曾山崎図書館）ですね。11月18日に行われましたが、これに関してご発言、ご質問などをいただければと思います。

○池野委員 市民参加型の事業評価と今現在やっている図書館評価との関連というのは、どういう形でやっているかというのが私もちよつと見えなくて、それを教えていただきたいのです。

○近藤館長 今やっている図書館評価は、図書館全体の活動を幾つかの指標を取り出して評価していただいているのですけれども、今回の市民参加型事業評価の方は、さっきのアンケート結果にもありましたけれども、変な話、廃止という可能性もあるということですから、今それぞれの各課でやっている事業を評価の方が見て、それが本当に実施していく意味がある事業かどうか、そこまでさかのぼってやるものだと思うのです。例えば今回も学識の方とか、公認会計士の方とか、あとは一般の市民の方で、いわゆる幅広い方、この会も幅広いのですけれども、幅広い方から評価をいただいて、我々市の内部だけではなかなか切り込んでいけないようなところも、あるいは違う観点から見て事業そのものを評価していきましようというところが今回の市民参加型の事業評価だと

思います。

○山口委員長 図書館評価は図書館法によって定められている。つまり、第7条に規定があるのですけれども、それに基づいているのです。ですので、全国的に行われていますけれども、中には事業についての評価とサービスについての評価という要素がある訳です。それに対して先ほどのいわゆる仕分けの方は、市独自の取り組みということだと思うので、その点で今、館長から学識経験者というか、公認会計士と言いましたけれども、私の知っている範囲というか、事業評価関係の文献をいろいろ読んだりしていますと、図書館について知っている人が必ずしも入っている訳ではない。だから、外部の目で見るとということなのでしょうね。ただ、それがどこまで本質を見ているか、評価しているかというのはいろいろと賛否両論があるということだと思います。

○池野委員 ありがとうございます。

○山口委員長 私から館長に確認をしたいのですが、これはたしか評価人が4人、5人ですか。

○近藤館長 5人です。

○山口委員長 今回、どのような方が評価人としてお出になっているのか、教えていただけますか。

○近藤館長 1名はコーディネーターという名称になっていましたけれども、その方はシンクタンクの職員の方です。もう1人が有識者の評価人ということで、これは大学の先生です。今回は大学院、都市環境科学研究科の先生です。公認会計士の方が1名、あと市民評価人の方が2名、合計5名の方です。コーディネーターの方は司会役が主でしたけれども、最後に評価ということで、要改善とか、そういったことの評価には携わったということになります。

○山口委員長 ありがとうございます。

例えば今日は100%提示でいろいろ結果などを報告していただいた訳ですが、これはまた後日何か報告書みたいなものが公開されるものなのでしょうか。

○近藤館長 しっかり聞いていませんけれども、当然ホームページでは間違いなく公開すると思います。冊子にまとめるかどうかは確認をとっていないです。

○山口委員長 評価人は、今回はたしか1日に数件の事業仕分けがあったかと思うのですが、例えば今ご紹介いただいた5人の方が木曾山崎図書館のことだけをやるのか、ほかの事業についても次々やるような形で仕分けをされているのか、そこら辺の仕組みも教えていただければ。

○近藤館長 今回の市民参加型事業評価は、2チームありましたので、先ほど紹介した図書館側の入っていた方は、公立保育所運営事業、子育て推進課ですね。図書館、あとスポーツ広場事業、これはスポーツ振興課、あと町田市民バス運行事業、交通事業推進課の4つが対象ということです。もう1つのチームの方は、地域高齢者支援事業、高齢者福祉課、あと子どもセンターただON運営事業、児童青少年課、成人保健指導事業、保健予防課、あと小野路宿里山交流館事業、産業観光課の8事業を2チームでやったということです。朝8時45分ぐらいから始まって、最後までいた訳ではないのですけれども、夕方4時ぐらいまでだったと。

○山口委員長 やり方の課題はいろいろあるのだろうと思うのですね。昔、事業仕分けを傍聴したことがあるのですけれども、今回ご提示いただいた資料はA3で3枚、かなり細かいデータもありまして、図書館評価、外部評価を例年やっている私たちにしてみれば、このデータを読むのは意外と時間がかかるなというのはすぐわかる訳ですが、この事業仕分けは、それを例えば45分間、初見で彼らは判定しているのか、それとも事前に渡されて判定しているのか、これはどうなのですか。

○近藤館長 まず最初に3枚のもの、最初からこの形ができた訳ではないのですけれども、最初、こういう形でどうですかということを担当課と、経営改革室になるのですけれども、相談しながらつくってお渡ししてあります。1回事前にこちらから10分ぐらい説明して、10分ぐらい1回顔を合わせる機会がありました。その後、評価人の方は、あと2回か3回、全部で4回集まって、この辺がわかりにくいのだけれどもとか、ここはどうなのだろうみたいな話し合いをして、それがこちらに返ってきて、この資料をより完成に近づけたということ。あと、そういうやりとりを、簡単な議事録を見せてもらっていますので、参加はしていませんけれども、評価人の方がどういうことに興味があるのかというのは事前にわかったところが今回でした。

正直、2年前、文学館の事業評価があったのですけれども、そのとき私は聞いていたのですけれども、あのときは多分こういうやりとりが全然なくて、こちらが思っていること、全然想定していないことを評価人の方がおっしゃって、うまく議論がかみ合わなかったというのが、文学館だけなのか、ほかにもあったのかというのは私はわかりませんが、そういった経験を踏まえて、今回このような形に担当である経営改革室はしてきたのかなということがあります。という意味では、こちらもどんなことを考えているか事前にわかっていたので、やりやすい面はありました。

○山口委員長　そういう点で言うと、事業仕分けも進化してきたということですかね。初めて町田市で行われたとき、守谷館長時代ですか、私も覚えているのですけれども、その場だけの勝負というので、本当に20分でわかってもらえるのだろうかという側も不思議でしたけれども、少し変わってきているのですね。

とはいいいながら、要改善と出されるのはすごく簡単なのでしょうか、それイコールすぐ運営形態の問題とか、そういうところへつながってしまうのか、それとも我々もよく議論している中で、そもそもいろいろ改善する根底には実は資料費が不足しているとか、そういうお金の問題があるのではないかと、人的な問題があるのではないかとということもあると思うのです。どこの自治体の仕分けを見ていると、そういう点が意外と後回しになっている感じがあるので、私はこういうやり方で簡単に評価をされるのはちょっと抵抗があると思うのですね。

これにつきましてはいかがでしょうか。傍聴された委員の方がいらっしゃれば、感想などをお願いしたいと思います。

○鈴木委員　清水委員と2人で傍聴しました。本当に10分間の説明で、私たちはある程度わかっている目でも追うので結構大変でしたけれども、評価人の人は前もって勉強する機会があったのではないかなという感じで、ちゃんと理解はしていらして、傍聴者に対する質問で、この説明で時間は足りていると思いますかという質問があって、私はもう少し丁寧に説明した方がいいのではないかなということを書きましたけれども、文学館のときの話は、私は出ませんでした。伺っていた話と今回の事業仕分けはそうではなく、もうちょっと丁寧な

感じはしました。

評価人と館長とのやりとりもかみ合っていないというのではなく、やりとりになっていたなどは思いまして、要改善というのは、木曾山崎図書館は8館の中で一番高齢化しているということがデータの上でもわかっていて、それに対する対応というのは、あの場で一般の利用者の評価人がおっしゃっていたようなことも取り入れられる。椅子を用意するとか、2階の今はおはなし会にしか使っていないスペースをもうちょっと何かに利用できるのではないかとか、評価といってもいろいろな提案があって、館長もできるところからやっていきたいとおっしゃっていて、そういうことはああいう場で利用者も、ふだんの利用者懇談会とか何かでは出せない。あの人たちにとってはかなりきちんと勉強して考えたことかなという感じでした。

もちろん、さっき委員長がおっしゃったように、資料費とかそういう問題は今回の話し合いの中には出てきていない問題でしたけれども、皆さんが始まる前よりも、現状維持ではなく、要改善という人が傍聴者の中にも増えたというのは、そのやりとりの中で問題点がはっきりしてきて、改善が少し可能なこともあるのではないかと。課題も見えてきたということもあって、事業評価自体は今後につながるような感じはしました。

○山口委員長 ありがとうございます。

清水委員、いかがですか。

○清水委員 私は、仕分けというか、この評価というのがしっくりこないというか、違和感を感じたのですけれども、それは現状維持と要改善と廃止という3つの言葉がすごくわかりにくくて、要改善と現状維持はどちらがいいのだろうというのが傍聴している者からしたらわからないのです。要改善というのはいいことなのではないかと思ってしまう。現状維持というのは悪いことなのではないか。変わらないから、よくないのではないかというふうにイメージとして受けてしまいます。

図書館でも、こういうことが課題で、こういうことを取り組んでいきたいという積極的な提言もされていきましたね。ということは、その姿勢を現状維持してほしいということなのか、それではだめだよ、もっと変えなきゃということでは要改善なのか、どちらの立場でボタンを押せばいいのかというのが全くわか

りませんでした。

だから、これはすごく危険な感じ。その結果を市の方がどういうふうに評価するかというのがまたある訳ですから、この3つのうちから1つを選ぶというのは、どういう意味があるのか、すごく気持ちが悪く感じました。

○鈴木委員 そのこの評価人は、図書館側が出した課題4つについて、一番このことが気になるというふうにおっしゃって、その部分を改善してほしいという感じに評価をなさっていて、確かに3つしかないというのは問題であります。

いつも、ああいうアンケートというのは余りにも単純な回答になってしまっていて、本当に誤解を生むかもしれませんが、現状のままで全てよいという訳ではないとなると、要改善というところを選んでしまって、市がそれをどういうふうに評価するかはわかりませんが、評価人の1つ1つの具体的な要望というか、評価に対して、また図書館側は、さっき館長がおっしゃったように、改善案というものを提出して、そして改善案が実際に履行されていくかどうかということのある程度の期間を持って見ていくという方向になったら、今回のやり方はそんなに悪くないのではないかなと思いました。

○山口委員長 これははっきり言えば、市全体のイベントですね。それはそれでいいのですが、図書館は図書館の立ち位置というのは、公共サービスの部分もあるけれども、固有の部分もある訳で、それで毎年図書館評価を自己点検して、それに対して外部評価をする訳で、ですから、いわゆる事業仕分けというのは、結果としては経費削減とか運営形態見直しイコールアウトソーシングという流れではないですか。

だから、何かそれが前提みたいなことで出てきてしまうと、例えば今伺っていて、そこに椅子を置いたらいいのではないか、このようにしたらいいのではないかという提案は、むしろ本当は利用者懇談会や何かに出て、またふだんの図書館員とのコミュニケーションの中で利用者から発案があって実現されていくというサービスの部分だと思うのです。

でも、多分事業仕分けの報告では、そういう細かいことは一切表には出てこないだろう。多分当日いた方しかご存じないみたいに思うのですね。そういう点で言うと、今回なぜ木曾山崎図書館が選ばれたのかなというのはずっと疑問

に思っていた訳ですけれども、1つの地域館だけを挙げて、それで図書館を見るような形で、果たしてちゃんと評価できるのかなと。

というのは、図書館というのは中央図書館も地域館も含めて1つですから、移動図書館も含めて1つですから、だから、一個一個の地域館の端々をつまみ上げて、そのよしあしを論じてしまうと、全体としての職員の取り組みとか、図書館のあり方というのが見えなくなってしまうと思うのです。その点では、申し訳ないけれども、私にはこれはイベントだなと見えてしまうのですね。

要改善というのをどう受け取るかだと思うのですけれども、いろいろ課題はあるのかもしれないけれども、少なくとも多摩地域の公立図書館の中では比較的いいサービスを続けてきたという歴史はある訳で、その上でプラスで何かやっていたらいいという議論だったらいいのですけれども、要改善というときに、さっき清水委員もおっしゃったように、それがどちらに向かっている改善の意味なのかというのがちょっと見えない部分、この仕分けについては、どう受けとめていいのかなという気持ちを私は持っていますね。

もちろん、企画部門からすれば、図書館協議会がかかわることではないという事だろうと思うのですけれども、ただ、図書館の運営やサービスについては、それを検討するのは協議会の仕事ですので、今後の動きは注視しないといけないかなと思います。

○鈴木委員 課題は、この上に載っているようなこと、課題2などは、木曾山崎図書館は児童サービスが、おはなし会などもすごく充実しているというところで、そういう感じだったのですけれども、それはそれとして、高齢者向けのことにはちょっと手薄だったのではないかなとか、そういうことが図書館側も少し再認識されたようだし、利用者との共通の認識はできたのではないかという感じがして、何度もあれですけれども、私はこれはこれで、PRのことなどもっと積極的にしていった方がいいとか、そういうことがあって、あの会場でもアウトソーシングするような話ではもちろんなくて、評価人の方もアウトソーシングではなく、地域の人たちをもっと活用して、例えば上のところに図書館の人がいないと、高齢者の集まりとかもできないのだったら、そこにボランティア的な人を頼むとか、そういう可能性もあるとか、図書館全体のことは、もちろん事業仕分けのときにどうこうではないのですけれども、地域館の特徴

的なところで解決することが少しはできるのではないかという感じはしました。何度もしつこく言って済みません。

○山口委員長 ほかによろしいでしょうか。

では、市民参加型事業評価については以上ということによろしいでしょうか。

次に、「ゴッホ展」ですか。今後、鶴川の方で講演会ということになりますが、これについてはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、館長報告に関しては以上ということです。

引き続きまして、本日、委員長からの報告は特にございませんので、協議事項、図書館評価についてです。

図書館評価につきましては、図書館側とのいろいろなやりとり、情報提供などのタイムラグもありましたので、また評価内容についてまだ詳細に詰め切れていないところもございますので、11月は報告書はまだ提出しない。12月に提出をするということで、先ほど館長にご了解をいただいてまいりました。引き続きまして、今日、定例会終了後、最終的な打ち合わせをさせていただければと考えております。

図書館評価については、ここでは以上ということにしたいと思います。

このスケジュールについてはよろしいですね。

特にございませんでしたら、本日の定例会は以上ということにしたいと思います。

—了—